

## 東北大医 草野 篤子

目的 戦後の学制改革によって、昭和23年に日本で初めての新制女子大学と家政学部が創設された。日本の女子高等教育史上画期的な、この時期の事情をより明確にすることを意図して、新制女子大学と家政学部の創設に重要な役割を演じたといわれる連合軍総司令部(GHQ)、民間情報教育局(CIE)、高等教育班でのホームズ博士(Dr. Lulu Holmes)の約2年にわたる日本滞在期間中の業績を中心に検討する。

方法 ホームズ博士が、カリフォルニア大学バークレイ校(California University in Berkeley)に残した「日本の女子高等教育の変革」("Changes in Higher Education for Women in Japan 1946-48")文書、及びトレイナー氏(Joseph C. Trainor)が米国スタンフォード大学フーバー研究所公文書館(Hoover Institution Archives, Stanford University)に託したトレイナー文書に加えて、手紙及びインタビューによって収集した情報を解析する。

結果 (1) ドノヴァン(Eileen Donovan)とホームズは、多くの提案を共同で行なっているが、最初の共同プロジェクトは、あらゆる学校段階で女子は男子と同様な教育課程の下で学習しなければならぬということであった。(2) ホームズは、「文部省は、女子の学位取得に対して関心を示さなかった」と述べている。(3) 旧制高等学校、専門学校、女子専門学校を短期大学に昇格させる案がCIE内部にあり、ホームズの四年制大学への昇格案と一時期対立した。(4) 昭和22年7月に制定された「大学基準」の中には、大学の学部名には家政学部は入っておらず、一般教育科目の社会科学系列の一科目としては入っている。